

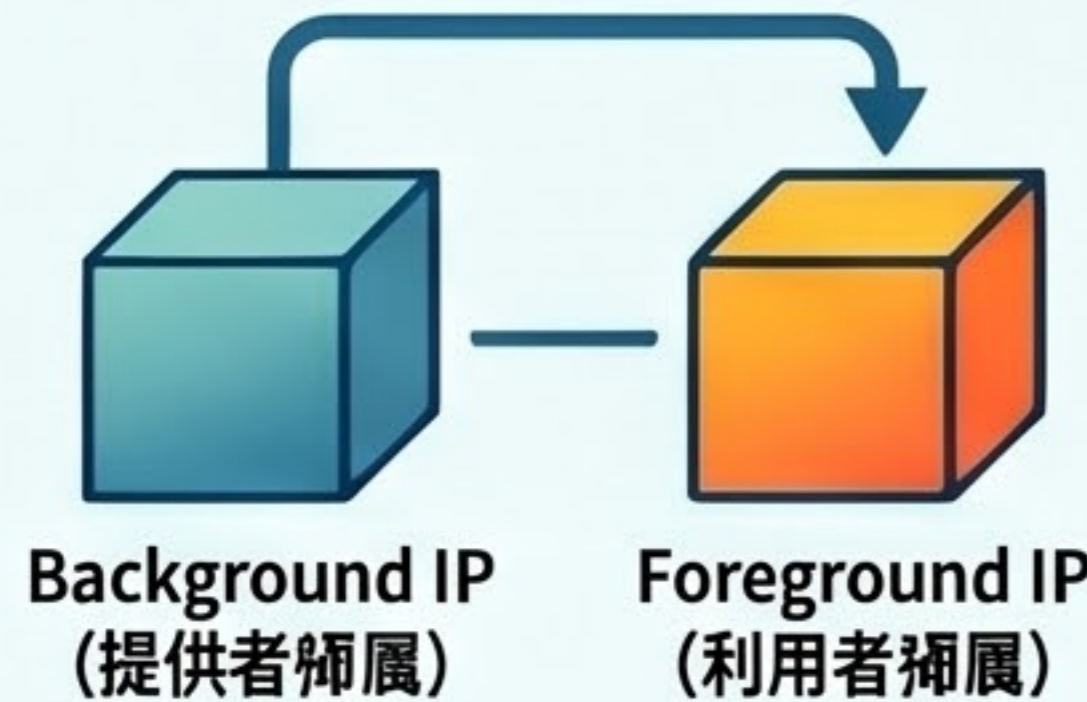
# 2026年「AIロボティクス戦略」：日本の「身体知」を世界標準へ

## オープン&クローズ戦略の階層化



戦略の核：知財・データの3層構造

## System to Silicon：半導体設計の知財ルール



**回路IPの低償利用と権利の明確化**  
高価な設計ツールやIPを共同利用できるプラットフォームを構築し、開発の障壁を下げます。

**Foreground IPの利用者帰属**  
既存の知財(Background)は提供者に、開発で新たに得られた知財(Foreground)は利用者に帰属させることで、スタートアップの出口戦略を保護します。

## 身体知 (Body Knowledge) の資産化

日本の現境に蓄積された「暗黙知」を AI-Readyなデータとして観劇し、他国が模倣困難な付加価値資産として定義

摩擦

force 力

## 社会実装を阻む「責任」と「信頼」の壁



**補助型 AI**  
人が判断：利用者の通失が問われやすい

**依拠型 AI**  
自立的：製造物責任 (PL法) の観点からメーカーの設計瑕疵が焦点



法体系のパッチワーク化リスク  
包括的な断法ではなく既存業法の個別対応 (変ね型) をとっているため、省庁間の調整コストによる規制運法が懸念されています。

## 2040年への提言：実装を加速する施策



**官公需 (アンカーテナンシー) の活用**  
災害や訪米分野で数千億円規模の機防調達を明示し、企業の重産投資と知財蓄積を強気に後押しします。



**セーフハーバー・ルールと専用保険**  
一定の安全基準を満たせば事故時の賠償を免責・軽減する仕組みと、AI専用保険を運動させ、導入企業の投資リスクを軽減します。



**2040年市場規模：20兆円**  
世界シェア5割超の増産を柱指し、日本を「PoC量産国」から「実装大国」へと転換させます。